

障がいのある方への震災時対応の手引き

(一般支援者編)



I. はじめに

このリーフレットは、震災にあわれた障がいのある方と御家族への支援をされる方のためのものです。豊田市において起こるであろう地震の震度は中越沖地震と同等の6程度です。このリーフレットは、震度6程度の地震が発生した直後から1週間のあいだ（特に最初の3日間）、障がいのある方を支援する場合に留意すべき事柄について、簡潔にまとめたものです。支援活動をされる方々のお役に立てるものであることを願っています。

リーフレットは2部からなっています。最初は、「障がいのある方に共通した対応の要点」、次いで3つの障がい（知的障がい・自閉症、重症心身障がい、肢体不自由）の震災発生時の留意点と対応です。気をつけるべき事柄と対応について、1つ1つチェックをしてみてください。

II. 震災が発生しました。こんなことに気をつけて対応しましょう

1. まず安否確認を確実に行います

- 障がいのため、家に取り残されている可能性があります
- 名簿があれば名簿に従い、なければ地域の方、地区民生・児童委員、通っている機関、地域小中学校等と協力し行います
- 方法：家庭を訪問します
- 確認する内容
 - 現在いる場所
 - 被災の様子（人数、生死、けが、家の被害状況）
 - 困っていること

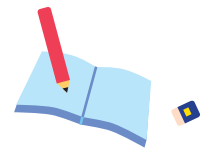


2. 障がいのある方への支援は、必要な情報を得ることからはじまります（障がいのある方や御家族には、支援を受ける場合必要な情報をメモしておくように勧めています）

- 氏名、呼び名、生年月日、年齢、住所、連絡先（通っている機関）、血液型
- 障がい名（知的障がい、自閉症、脳性まひ、難聴、てんかんなど）、障がいの程度、服薬内容（処方薬名と投与量、飲ませ方、投与回数、形状：錠剤、粉末、水薬、座薬）、かかりつけ医療機関と医師名
- アレルギー（食べ物、くすり、洗剤、消毒薬）
- コミュニケーションの取り方
- 理解してほしい行動（臆病、興奮、音への過敏性、多動、体が固くなるなど）
- 食べ物や飲料水への配慮（硬さ、量、好み、アレルギー、食べさせ方など）
- 排便・排尿への配慮（おむつ、姿勢、回数、導尿の有無など）
- 必要に応じて資料に基づき説明を求めます

3. 必要な情報を確実に伝えるようにします

- 分かりやすい言葉で、なるべく紙に書いて説明します



4. 食物アレルギー、生の食べ物に注意します

- 食物アレルギーを確認します
- 食物アレルギーに注意して提供する食べ物を選びます
- 生ものは、その日に提供します（残して次の日に食べると、食中毒の原因になります）

5. 熱中症や脱水症を予防します（季節に関わらず気をつけることが大切です）

- 水分をこまめに与えます（できればアルカリ飲料も）
- 長く車の中にいるときは注意します（熱中症になりやすい）

6. 余震に気をつけます（余震で家具などが倒れけがをすることもよくあります）

- 安全な場所を確認し、危険な位置を避けるように支援します

7. 避難所では、安心して過ごしやすい環境を提供するようにします

- 間仕切りなどでプライバシーを守れるようにします
- 障がいのある子や大勢の人の中では落ち着けない方には、別室を用意します

8. 災害初期の体と心の変化に注意し対応します（よくみられる症状を知り対応します）

- 外傷（症状が言葉で訴えられません。見落とさないよう全身をよくチェックします）
- よく見られる身体症状は、嘔吐、発熱、けいれん（あれば受診を勧めます）
- 食欲低下（不安なので、安心感を与えながら、食べられるものを少しずつ与えます）
- 排泄の失敗・夜尿（ストレスや慣れない環境のためです。怒らないで。安心できるトイレを提供します）
- 運動技能の低下による外傷の増加（体を動かさないためです。適度に運動させます）
- 風邪などありふれた病気の重症化（抵抗力が低下し肺炎などになりやすい。すぐ受診）
- 大きな本震・余震とその直後の混乱から、気持ちや行動に変化が出ます（穏やかに接します甘えを受け入れ、気持ちを代弁してあげます「怖いよね、イライラしますね」）
- 独りでいるのが怖くなります（怖いのです、なるべく側にいて安心させます）
- 落ち着きがなくなります（余震や周囲の混乱した様子が怖いのです。穏やかに接します、余震などにはその場から離れ適度に体を動かすのもよいでしょう）
- 不眠（ストレスのためです。一緒に寝たり、大変なら医師に睡眠薬を処方してもらいます）

Ⅲ. 知的障がい・自閉症の方

「自閉症」とは、コミュニケーションの遅れ、対人関係の不得意さ、こだわりを特徴とする発達の障がいです。こだわりや感覚過敏からパニックを起こすこともあります。また「知的障がい」とは、知能の発達がゆっくりな状態です。

重い知的障がいや自閉症のある人は、地震とその後の状況を理解することが難しく、混乱しがちです。災害時に配慮すべき事柄をよく理解し対応しましょう。適切に支援をし、少しでも落ち着いた生活が得られるようにしましょう。

1. 支援に必要な情報を御家族から聞きます（基本は、IIを参考）

- 障がい名、程度（子どもの場合には何歳ぐらいの発達）、特徴
- コミュニケーションの力と方法
- 新しい環境に入ったときの行動（なじめるか、落ち着いて過ごせるかなど。出来なければ、静かな場所、適度な運動などの配慮をします）
- 感覚への反応（痛みに鈍感、音に敏感、急に触られることが苦手、味やにおいに敏感など）
- 偏食（偏食がつよいことがあります。我がままではなく味などに敏感なのです）

2. 支援するとき気をつけること

- 確実に避難させます（危険が分かりません。短い言葉などで導き誘導します）
- 食べられるものを、食べられるときに食べます。食べ過ぎにも注意します
- 避難所に慣れるために、決まった場所を確保します
- 適度に体を動かします（環境の変化や退屈などからイライラしがちです）
- けががないかよく確認します（痛みに鈍感なことがあります）
- 感覚（ことに音）への過敏性に注意します（静かな場所を選ぶ、耳栓などの工夫）

Ⅳ. 重症心身障がいの方

自力で移動することが難しく、知的発達がとてもゆっくりな人を重症心身障がいと呼んでいます。重症心身障がいの方は、自分で安全なところに移動することができません。また、病弱で体調を崩しやすく、風邪なども短期間で肺炎など重症化しやすいのが特徴です。

1. 支援に必要な情報を御家族から聞きます（基本は、IIを参考）

- 障がい名、健康状態、合併症
- まひの状態（全身の筋肉がまひし、動くことがほとんどできません）
- 骨の状態（一般に弱く骨折しやすい）
- 食物と食事介助をするときの配慮
- 医療的なケアの必要性（吸引、チューブ栄養、導尿、酸素吸入など）
- 健康状態（一般に不安定で重症化しやすい）

2. 支援するとき気をつけること

- 確実に避難させます（落下物・家具の転倒の危険のない場所を確保します）
- 避難所では、別室を確保します（大勢の集団生活は、環境変化に弱いので状態を悪化させる危険があります）
- 体温調節に気をつけます（水分の補給、換気、保温など）
- 食事の時には誤嚥に気をつけます（経管栄養も併用している方は、無理に口から食べさせないのが安全です）
- 骨折や脱臼に注意します（着替えやオムツ交換時はとくに注意）
- 痰がからみやすい方は、吸引など痰の除去に気をつけます

- 吸引器や人工呼吸器を使っている方については、すぐに医療関係者に伝えます
- 酸素を使用している方については、酸素ボンベの残量を聞きます（不十分なら、すぐに医療関係者に伝えます）
- 痙攣発作の増加に注意します
- けががないか全身をよく観察します（自分では訴えられません）
- 吐き気や腹痛に気をつけます
- 体調が悪そうなら早めに医師の診察をすすめます（重症化しやすいため）

V. 肢体不自由の方

脳性まひ、筋ジストロフィー症など運動機能に不自由さがある方は、震災時には自力避難が難しく日常の生活動作にさまざまな工夫や支援が必要です。

1. 支援に必要な情報をご本人・御家族から聞きます（基本は、IIを参考）

- 障がい名、健康状態、合併症
- まひしている部位とその程度（筋肉のまひのため出来る動作と出来ない動作があります）
- 介助方法（寝る、座る、抱く、車椅子を押すなどの場合）
- コミュニケーション（ことばの理解、表現、文字理解など）
- 食事と食事介助をするときの配慮（姿勢、硬さ、好み、一回量など）
- 医療的なケアの必要性（吸引、チューブ栄養、導尿、酸素吸入など）

2. 支援するとき気をつけること

- 確実な避難を支援します（自分で危険な場所から動くことができません）
- 落下物・家具の転倒の危険のない場所への避難
- 避難所では、トイレ（できれば身体障がい者用トイレ）の近くを提供します
- 避難所のバリアフリー化（移動通路幅の確保、応急の簡易スロープ、洋式トイレ等）
- 車椅子の貸し出しをします（自力移動が普段より難しくなります）
- 介助するとき一人で無理をしない（複数で介助する方が安全・安心です）
- よく理解できてもまひのためコミュニケーションが難しく工夫が必要な方もあります（分かったふりをせず、一語一語確認するなど）
- 安心して着替えや医療的処置（人工肛門、自己導尿など）のできるプライバシー空間を提供します
- 食事の時は普段使っているスプーン、フォーク等を使えるようにします
- 食べられるものを、食べられるときに食べてもらいます
- 適度に体を動かすように勧めます（まひのため体が硬くなり易い）
- けががないかよく確認します。
- 骨折や脱臼に注意します（骨は弱く骨折しやすい。移動を介助する時やオムツ交換時はとくに注意が必要です）
- 食事の介助をするときには誤嚥に気をつけます（姿勢、食物の硬さ、一回量などご本人に確認します）



発行：社会福祉法人 豊田市福祉事業団
 〒471-0062 豊田市西山町2-19
 TEL:0565-32-8980 FAX:0565-32-8987
 メール: fukushijigyodan@city.toyota.aichi.jp